

が持てないし、教えられる側も責任が持てないので、研修が終了した時でも、大体の診療方法が分かっているという程度で、人の命を左右するような診療ができるようには成長していないと思う。

すなわち幅広い臨床能力が身につけているというレベルには、まだ達していないと思う。

この医師研修制度の罪の部分

1) 医師不足

新医師臨床研修制度がインターン制度を真似た点は3つあって、7科目の臨床研修科目と、臨床各科をローテーションする研修方法と、臨床研修を必修として義務付けた点であった。

この2年間の研修義務付けが、現在大問題になっている医師不足を起したのであって、臨床研修科目や研修方法は医師不足とは全く関係がない。

臨床研修は必修であるから、2年間の研修期間中は、研修医は診療実務に全く参加できない。診療担

当者から見れば、その分の人員だけの医師不足が発生しているのが分かるはずである。

平成16年4月からの1年間は、大学医学部卒業者の1年分の人員約8,000人の医師が診療実務の中で不足になった。

平成17年4月からの1年間は、大学医学部卒業者の2年分の人員約16,000人の医師が診療実務の中で不足になった。

平成18年4月以降は、医師不足のために診療規模を縮小したり、廃院してしまったところに、毎年必ず約16,000人の医師不足が繰り返されたので、医師不足がますます激しくなり、今まで一度も経験したことがないほどの医師不足となっている。

現在の医師不足をなくするためには、新医師臨床研修制度を1日でも早く廃止する以外に、全く方法がないと思う。

2) 医師偏在

臨床研修病院は昔のインターン時代とは全く変わって、大学附属

病院以外に数多くの民間病院が研修病院の指定を受け、研修医が自由に研修病院を選ぶことができるように改定された。この改定が医師配置を大変革することになる。

研修医はいろいろな診療科を見ているので、それらの科の労働環境がよく理解できて、仕事が楽な診療科に医師が多数集まり、田舎の労働環境が悪い病院にも行かなくてはならない大学医局に戻ることを避けたり、産婦人科や外科などの仕事がキツイ科を志望する医師がいなくなるという現象が起こったりした。

これらのことは、望ましい医師の適正配置とは全く逆の状況である。このことから新医師臨床研修制度は、医師偏在を作っていると断言しても良いのではないかと思われる。

この点からも、新医師臨床研修制度を1日でも早く廃止する必要があると思う。

お知らせ

第36回 全道医家囲碁大会 ならびに 女流アマとの交流会開催のご案内(予告)

標記大会を下記のとおり開催することになりましたので、多くの会員にご参加いただきたくご案内申し上げます。

正式なご案内は、10月1日・11月1日の医報附録でいたします。

【女流アマとの交流会】

日時 平成21年11月14日(土)

対局 午後2時～午後5時

懇親会 午後5時～午後7時

会場

対局 北海道医師会館

(札幌市中央区大通西6丁目)

TEL 011-231-1434

懇親会 会場未定

【大会】

日時 平成21年11月15日(日)

対局 午前9時～午後4時

懇親会 午後4時～午後5時30分

会場

札幌市医師会館5階

(札幌市中央区大通西19丁目)

TEL 011-611-4181

お問い合わせ先

〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目

北海道医師会会員課内 全道医家囲碁連盟事務局

(担当：若松・村重)

TEL 011-231-1434 / FAX 011-241-3090